



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2022年8月28日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

映画で主人公 林家たい平さん

28日(日)=1、3面

迫る



人気長寿番組「笑点」(日本テレビ系)で、落語家の林家たい平さん(57)＝写真＝はいつも明るい表情で笑いを届けています。着物の色からの「オレンジ」という愛称もすっかり落語ファンの間で定着しました。テレビのバラエティー

番組や寄席だけではなく、最近では俳優としての活動も目立っています。全国で順次公開中の映画「くの空」では、元電気工事店の主人公を演じています。同僚の死を引きずっている役で、スクリーンに明るいたい平さんは登場しません。どの

ような心境で演じたのでしょうか。また、取材で、映画に出演することは「落語の栄養になる」とも打ち明けてくれました。落語という芸に精進するたい平さんの知られざる姿に迫ります。

論点

核と日本人

9月1日(木)=オピニオン面



原爆ドームを写生する子どもたち=広島市中区

ロシアによるウクライナ侵攻では、ロシアが核兵器の使用を示唆したことに加え、原子力発電所が実際に攻撃されました。

唯一の戦争被爆国で、かつ国内に多数の原発を抱える日本では、核戦争への不安と原発廃止を求める声が上がっています。

この危機に私たちはどう向き合うべきなのでしょうか。専門家らに話を聞きました。

木材を粉砕して固めた木質ペレット＝林野庁提供



気候革命

岐路に立つバイオマス発電

30日(火) 1、3面

脱炭素社会実現に向けて導入拡大が急がれる再生可能エネルギー。その一つ、大型のバイオマス発電計画を中止するケースが国内で相次いでいます。燃料を

海外に依存しており、ロシアによるウクライナ侵攻の影響も加わって採算性が悪化。燃料の「持続可能性」を巡る批判もあります。地元の間伐材を有

効利用する「地産地消」で活路を探る中小規模の発電所の取り組みなども含め、国内の木質バイオマス発電の現状と課題をまとめます。

特集ワイド

作家・中村文則さんインタビュー

29日(月)=夕刊特集ワイド面

作家の中村文則さん＝写真＝はかつて、代表作「教団X」でカルト教団の狂気と暴走を描きました。

では今、政界で次々と明らかになる旧統一教会との不適切な関係をどう見ているの

でしょうか。「この問題をうやむやにするようでは、日本はもう終わりかもしれません」。中村さんは政治家の対応を批判し、この問題の行く末を案じています。



竹橋の窓辺から

編集後記



太平洋戦争が原爆投下で終結したのが1945年8月15日。マスメディアはその戦争に加担した自戒を込め、8月になると、戦争の意味を考える企画を打ちます。22日にTBSラジオと共催したオンラインイベント「戦争とメディア」もその一つでした。ウクライナではきょうも市民が犠牲になつていきます。戦争の始まりと終わりをどの国よりも知るはずのない日本では、私たちはメディアができることは何か。これからも自らに問い続けます。(千代崎聖史)

新毎日

150

2022年2月21日 毎日新聞創刊150年